

所在地:	横浜市緑区白山1-16-2		
敷地面積:	10289㎡	延床面積: 20497㎡	
設立:	1989年8月	従業員数: 582名	
ISO14001取得:	1998年7月	ISO14001最新更新: 2007年7月	
主要製品:	コミュニケーション機器		
環境コミュニケーション:	08年度		
情報開示:	2件	工場見学: 0名	地域貢献活動: 1件
問合せ:	人事総務部 総務グループ	TEL: 045-939-7000	

ごあいさつ

ケンウッド横浜事業所では、1997年に全員参加による環境負荷の低減活動の取り組みを開始し、翌年にISO14001の認証を取得しました。活動開始当初は事業所内の「省エネ推進活動」や「廃棄物の削減活動」などの保全活動を中心としていましたが、ここ数年間は「商品」そのものが広く環境に与える影響を低減するための活動に重点を移し、「環境に配慮した製品づくり」を環境方針に掲げ継続的な改善活動に取り組んでいます。

製品の環境負荷低減活動と保全活動の取り組み状況は以下の各項でご紹介致しますが、各活動とも計画に沿った成果を上げることが出来ています。今後も、一人ひとりの日々の取り組みが着実な成果を出せるよう、組織と体制を整え継続的改善に積極的に取り組むとともに、社会・地域貢献への取り組みへも積極的に参加して参ります。



横浜事業所長
明石 泰昌

2008年度の環境重点テーマの取組み

目標	成果
事業所の省エネルギーの推進(CO2削減) CO2排出量を 958t-CO2 [※] 以下とする。	CO2排出量 910.8t-CO2 [※] (目標に対し105.2%の達成) (1997年度比:45.8%の削減)
事務用紙使用量の管理 管理活動の定着を図る。	各活動部門にて管理活動が定着していることを確認。 (管理目標 1,071,600枚に対し 877,201枚(目標に対し 122.2%の達成))
社会貢献活動 ペットボトルキャップ回収によるワクチンの寄付	回収・提供実績 94,795個 (社内販売本数に対し 131.1%相当を回収) (100%を上回るのは社外・家庭からの持ち込み分を含むため) <small>※ 使用エネルギーのほとんどは電力で、換算値は社内基準係数を使用しています。</small>

製品・環境配慮ポイントの紹介

目標を商品の省エネルギー化に
定め取り組んでおります。



NX-200/300

デジタル業務用携帯無線機
NX-200/300

2002年モデルに対して待ち受け電流を33%削減し、業界トップクラスとなりました。CO2換算では昨年の年間119トンからさらに改良を重ね111トン、合わせて230トンのCO2を削減することができました。

全新規設計機種に対する環境設計評価を実施し、環境負荷低減活動に取り組んでおります。



NX-210

デジタル業務用携帯無線機
NX-210

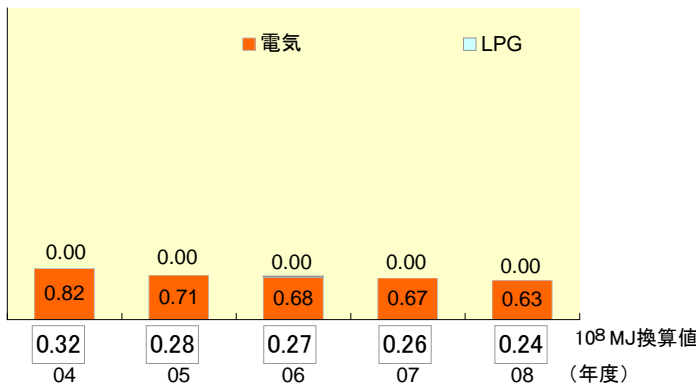
基準機種(NX-200)と比較して、部品点数の削減により分解性向上の目標を達成できました。再生可能率[※]95%(目標75%)を達成。

※再生可能率:
(再利用+リサイクル+エネルギー回収)/製品質量

環境パフォーマンスデータ グラフ表示年 2007:2007年4月1日~2008年3月31日

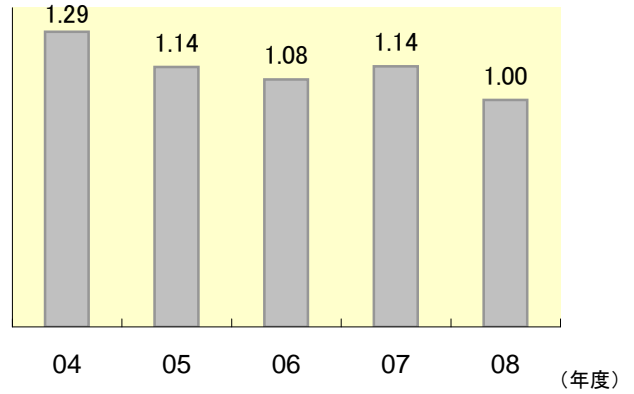
エネルギー使用量

単位:千kl



CO2排出量

単位:千t

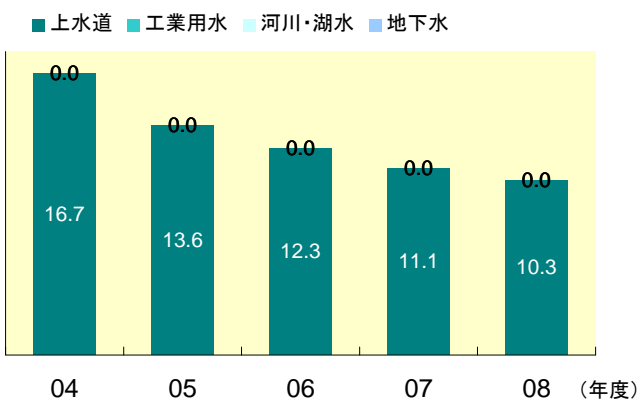


算出基準について

2007年度の電力/CO2換算は0.410kg/kwhを使用、その他燃料も省エネセンター公表の換算値で算出しています。

水の使用量

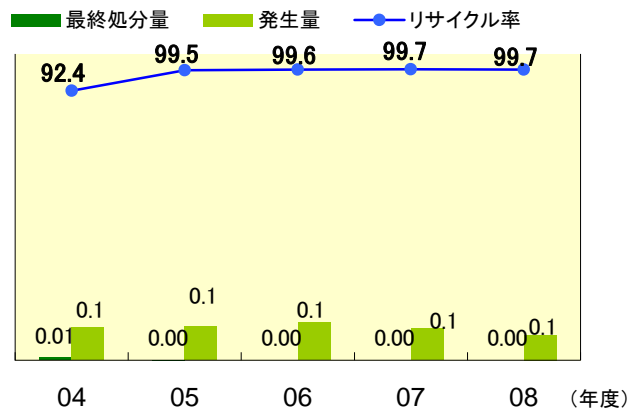
単位:千³m



循環的使用量 0.00 m³ 雨水使用量 0.00 m³

産業廃棄物・有価発生物

単位:千t、%

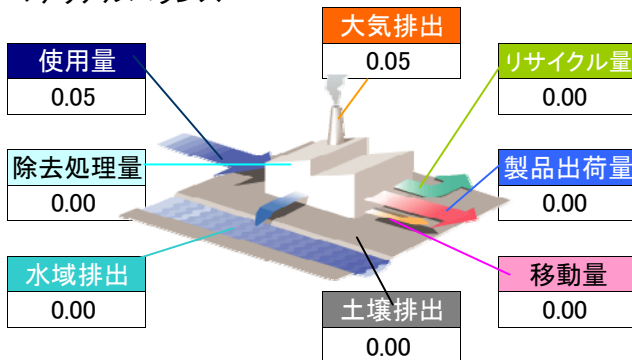


化学物質

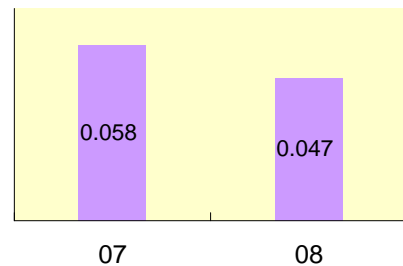
単位:t

マテリアルバランス

08年度



重点削減物質 排出・移動量



環境パフォーマンスデータの特記事項

化学物質の管理及び取り扱いについては、著しい環境影響を与えないよう手順書を定め運用しています。主たる使用目的はお客様からお預かりした商品修理時の最終仕上げで、ケース等のクリーニングに使用するアルコール類となっています。

環境法令等の順法状況 08年度

<大気汚染物質計測状況>

	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
SOx	Nm3/h	N/A			0.00		
		N/A			0.00		
		N/A			0.00		
NOx	ppm	N/A			0.00		
		N/A			0.00		
		N/A			0.00		
ばいじん	g/Nm3	N/A			0.00		
		N/A			0.00		
		N/A			0.00		

<水質汚濁物質計測状況>

	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
COD	mg/l	N/A			0.00		
					0.00		
					0.00		
BOD	mg/l	N/A	600未満	570未満	0.00	424.40	年1回(自主測定)
					0.00		
					0.00		
窒素	mg/l	N/A	240未満	228未満	0.00	26.00	年1回(自主測定)
					0.00		
					0.00		
リン	mg/l	N/A	32未満	30未満	0.00	1.60	年1回(自主測定)
					0.00		
					0.00		

<騒音・振動>

	単位	計測場所	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
騒音	dB	昼 敷地境界線上	65.00	64.50	59.00	59.00	設備更新時
		夜 敷地境界線上	55.00	54.50	53.00	53.00	設備更新時
振動	dB	昼 敷地境界線上	70.00	69.50	28.00	28.00	設備更新時
		夜 敷地境界線上	60.00	59.50	28.00	28.00	設備更新時

法令規制値:法または条例および協定の規制する値

N/A:法令規制対象外の項目

法令規制値超過について

報告すべき事項はございません。

指導、指摘事項に対する改善状況

指導、指摘事項	改善対策
報告すべき事項はございません	

環境方針

【 環境理念 】

ケンウッドグループは、「新鮮な驚きや感動で人々に幸せな気持ちを創ろう」という企業ビジョンの下、全世界においてグローバルな事業展開を目指す中で、大切な地球環境の継続的な維持・改善により社会的責任を果たし、持続的発展が可能な社会づくりに貢献していきます。

【 環境方針 】

ケンウッドグループは、カーエレクトロニクス・コミュニケーションズ・ホームエレクトロニクス の3つのコア事業活動とその提供する製品およびサービスが環境に与える影響を十分に認識し、継続的改善により地球環境と資源の保全を図り、環境に配慮した製品づくりに次のとおり取り組みます。

1. 温室効果ガスの排出を最小限とする為、事業活動の効率向上および製品の企画・開発・生産・物流・使用・廃棄までを考慮した製品のライフサイクルにおいて、省エネルギー活動を積極的に推進します。
2. 限りある地球資源のため、製品づくりおよび事業活動において省資源・リサイクルに関する活動に取り組み、循環型社会をめざします。
3. 汚染予防の重要性を認識し、取引先様とパートナーシップを組み、環境汚染物質削減を継続的に推進します。
4. 環境活動に関連する法令およびその他同意する要求事項を順守します。

この環境方針は、全社員に周知し、一般の方へも公開します。

2009年 6月26日

相神 一裕
株式会社ケンウッド 代表取締役社長

最新の環境方針は<http://www.kenwood.co.jp/> より入手できます。

環境負荷削減の取り組み事例

廃棄部品の分解と分別取り組み

製品の修理等で発生した不良部品を集め、分解と分別を行い、リサイクルの質の向上に取り組んでいます。なお、一部は有価物として売却します。



不良部品は一旦黄色い札の”要分解”ケースに集め、その後”プラスチック、アルミ、トランス、モーター等”の材質や種類に応じて分解・分別しています。

省エネへの取り組み

新たな取り組みとしては昨年7月の「セブタライトダウン」に参加し、社員への省エネの意識付けを行いました。

また、日常の省エネ対策は「重要な省エネ行動」と位置付け、事業所を挙げて照明の間引き、階段利用の促進、離籍時のモニター電源OFFの励行など基本的ではありませんが活動の継続実施を図っています。



南面窓際の蛍光灯の間引き



エレベーター3基のうち1基は朝以外の運転を停止

停止中表示

環境コミュニケーション事例

近隣清掃への参加

毎年7月に近隣企業と合同で工業団地及び隣接道路の清掃ボランティア活動に参加しています。活動開始当初はタバコの吸殻、空き缶、コンビニビニール袋などさまざまなゴミが落ちていましたが、ここ数年は落ちているゴミの量も少なくなり街の美化に多少なりとも貢献出来ているのではと思っています。



ペットボトルキャップの分別回収と寄付活動への参加

事業所内で飲まれたペットボトルのキャップを分別回収し、NPO法人「Reライフスタイル」が行っている「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」へ対価を寄付する活動に昨年度から参加しました。

主旨に賛同する社員の家庭からの持ち込みもあり1年間で230kg近いキャップを提供させて頂くことが出来ました。

緊急事態への準備と対応

考え方と訓練計画

自然災害や事故等の発生時に「敷地外へ著しい環境影響を及ぼす可能性のある作業・工程・設備」について、各々手順書を作成し敷地外への影響の波及防止や最小限に止めるための体制の構築を行っています。また、教育訓練計画の中で定期的訓練の実施や手順の見直しを行うよう定めています。

緊急事態訓練

緊急事態が発生したとの想定に基づき、被害の拡大防止対応手順の再確認、対応常備品の確認、模擬連絡の実施などを行っています。なお、想定される緊急事態は「試験装置の原動機(大型モーター)の故障時の騒音の発生」、及び少量ですが修理品の最終クリーニングで用いている「アルコール類の500mlビンの破損による漏洩」などです。